

編輯後記

○漸く第二十二卷第一號を贈る事が出来た。

○過去一年間本學報の編輯に菲才をも省みず従事して來た。自らその性格を異にする學部・豫科・専門部の三の團體を包含する學園唯一の機關誌たるべき本學報としては、それらに（決して便宜的でもなく乃至は政策的でもなしに）純粹に適合したもの―それは品位の底下を意味しない―を編輯すべきではないかと絶えず反省しながら。そして全然斯く希はず、意圖しない譯ではなかつた。併し、周知の如く過去の實績に於いて常に矛盾を孕んでゐたと同様に學報それ自體が矛盾と或種の困難を藏してゐたし亦今も尙藏してゐる。少し具體的に言へば何處まで純學術雜誌として忠實であるべきか、また或執筆者に對しては犠牲的な（殆んど犠牲的な）執筆さへも敢へて求めるべきか、等と云ふ事だが……この上は會員諸彦の御理解と同時に御叱正も仰ぎたい。

○昨年五月末日鈴木大拙博士の高弟にして我が宗教學界の特異な存在であつた横川教授を喪ひ、そして二學期も初る九月初旬正系華嚴學の泰斗松原教授を、更に師走も漸く迫りかけた頃大學の否本邦西藏語學の開拓者寺本教授の三教授を僅か半歳に一時に喪つて了つた。こゝに謹しんで限りなき哀悼の意を表し乍ら、限られた僅かの紙數ではあつたが追悼文を輯録した。御多忙中にも關らず執筆を御快諾下さつた山口（益）教授、福井教授そして河野氏の執筆者各先生方に厚く謝意を表しておく。

○本號に萬造寺教授の珠篇「ホキツトマン論」を掲載させて頂く筈であつたが残念乍ら切迄に玉稿頂戴出來ず次號に廻はさして頂いた事を御斷りする。豫告目次の屢々の變更については豫め御諒承を願ひたい。尙前號表紙表題と本文のそれとに二三の錯誤のあつた事を執筆者並びに讀者諸氏に深謝しなくてはならない。――佐々木――